

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2991400041		
法人名	特定非営利活動法人 信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ2		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-11		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991400041-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2991400041-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F
訪問調査日	平成27年10月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな高台に立地し、生駒山が一望でき、近隣には大型スーパーや平群町北公園があり日々の散策に活用  
 させて頂いており、地域のボランティアサークルの方々の協力を頂き、コーラス・フラダンス・民謡の会・お茶会・手品  
 歌声会等、様々の場面で交流を図っており、地域サークルならではの入居者様と面識がある方も居られ旧交を温めていただいたり、楽しんでいただいています。四季折々の行事も積極的に開催し、入居者様に季節感を感じていただけるようになっております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の理念は「地域に根ざし、地域社会の一員として健康で、楽しく、安心して暮らせるように家庭的な環境で自立支援を行う。」を掲げており、開設して1年が経過したばかりである。事業所の西の方向に生駒山から信貴山に連なる山並みの景色を眺めながら、利用者は日常的にみはらし橋を渡り平群北公園への散策を楽しんでいる。事業所には併設のグループホーム「やすらぎ」や訪問介護事業所、居宅介護支援事業所があり法人全体で地域貢献をしていくという自負をもって活動している。又、「決められたサービスではなく、利用者一人ひとりに合った柔軟で、きめ細かなサービスを提供し安心して過ごして頂く」という事業所方針を職員に周知徹底しており今後は期待できる事業所である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

k a i s a i

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の玄関に「理念」「運営方針」「介護規範」を提示しいつでも各職員並びに家族様が見る事が出来るようにしている	理念の根幹は地域に根ざして生活し、利用者を家庭的な環境の中で自立支援すると謳い、玄関や事業所内に掲げ職員が共有している。法人グループ情報やパンフレットを地域に配布して情報発信している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成26年8月に自治会加入済。当、事業所の行事に地域で活動されているサークルの皆様に参加していただき交流を図っている。	自治会に加入すると共に、地域のネットワークにも参加して住民との情報交換の機会を作り、夏祭り等の地域行事に参加している。また地域ボランティアを積極的に受け入れたり、利用者が散歩の途中で近隣の方にも挨拶を交わし関係性を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ貢献はできていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の割合で開催している。	家族、町担当職員、自治会長、近隣福祉施設代表者、施設長や管理者が参加し「やすらぎ1」と共同で2か月に1回開催している。会議では事業所の現状報告や質疑応答を行い、身体拘束などが話題となる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の事で、役場や地域包括支援センター等に相談や連絡等を都度行っている。	町役場や包括支援センターへ制度運営の疑問点を聞いたり、事業所の現状を伝えたりしている。最近では町や市から入居の問い合わせを受けたりなど連携を図っている。待機者は現在5名である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	都度身体拘束に当てはまらないか職員一同で話し合い、身体拘束についての理解を深めている。また、事業所内研修も実施しております。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について冊子を作成し都度閲覧できるようにし、管理者は不適切な介護が行われていないか職員の意見を基に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様全員要介護であり日常生活自立支援事業についての話し合いは行っていないが、成年後見人制度については職員研修の際に知り得ています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約の際には良く説明をさせていただき理解・納得をしていただいています		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が訪問時に意見要望書を訪ね運営に反映させ家族様には改善点を明示し理解していただいています。	玄関に意見箱を設置して家族の意見を聞いています。又、毎日のように家族の面会があるために意見や要望を直接聞くことも多い。最近家族の要望で玄関に置いているスリッパを新しく取り換えた。	事業所で日常行っている散歩や入浴時間の対応など利用者本位に行う取り組みを家族に理解してもらうためにも、面会時や事業所便りの送付時などで家族へ積極的に伝えることが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は主任が吸い上げ管理者に要望し反映させています。	職員からの意見や要望は、業務連絡帳や介護医療連絡ノートを活用すると共に、朝礼時でも管理者や主任と職員が話し合っている。業務のなかでも随時職員から提案できる環境を作っている。副施設長は職員へのアンケート実施を2回して言いにくい意見等を収集している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設1年が経過し徐々に職員の整備が整いつつある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が介護技術等の向上を目指し実践の中でサービスの向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者及びケアマネージャ等の方々と随時連絡をとり、また訪問を頂き意見交換をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様やご本人様よりご意見を頂戴し、本人様に安心して暮らして頂けるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族様とは綿密に話し合いを行い、より良いサービスを構築できるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様といろいろな場面に応じたサービスの提供を話し合っています。現に訪問リハビリを利用されているご利用者様もおられます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が各ご利用者様に応じた時間を作り、共に作業をしたり昔の話をしたりしています。お買い物にも同行させていただいています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には必ずご家族様にご案内させていただき共に有意義な時間を過ごしていただけるよう努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの利用者様の家族様が週に1度以上、会いにこられ、ご近所の方や友人も頻りに会いに来てくださっています。	利用者は近隣の方が多く、家族や友人も毎日のように面会に訪れる。利用者の希望で墓参りに付き添うこともある。また、利用者の自宅近辺へドライブに出かけたりすると、車の窓から利用者の馴染みの地域を職員に説明してくれたりする。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み皆様でお話しされたり、レクリエーションをしたり、みんなで一つの事をやり遂げたりといった事を行っています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談があれば対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の暮らしの中で本人様との会話により希望や意向について把握し検討しています。	利用前に、初回自宅訪問時に本人や家族から詳しく趣味や生活歴や要望を聞き取り、事前調査表やアセスメントシートに記録し、診療情報と共に利用者別にファイルしている。新たな情報や意向は業務連絡ノートに記録し職員で共有を図ってる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や習慣、環境等事前に家族様よりお聞きしサービスに役立てています。入居者様の馴染みの場所なども同行し出来るだけいけるようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前にお聞きした内容に沿って現状状態を把握するよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様との話し合いや主治医、各医療機関と連携しプランに反映できるよう努めています。	管理者がケアマネジャーを兼務しているので、日常的に利用者や家族と話し合い、医師や看護師、職員の意見を基に介護計画を作成している。半年ごとにモニタリングしカンファレンスや見直しを行いしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様のケースにて心身の状態、食事、排せつ等を把握し情報の共有を図り、介護サービスの変更がある際は連絡ノートまたはお知らせ等を活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や家族様の状況変化には家族様の訪問時や施設行事等で拝聴し柔軟に対応させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園や大型スーパーなどがあり散歩や日々の買い物時にスタッフと共に利用させていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力いただいている医療機関にて随時往診や受診をさせていただいています。	提携医療機関から内科医が月2回の往診があり、また利用者ごとのかかりつけ医の往診もある。緊急時往診もある。歯科は毎週、皮膚科、眼科医は月1回の往診、整形外科受診に職員が付き添い受診している。看護師は週2日の勤務で利用者の体調管理を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員が往診時に付き添い、日々の健康管理にも目配り把握し、管理者、職員も入居者様に体調変化があれば主治医に相談、また往診に来ていただくようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関もあり、検査、入院時にも紹介いただいています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における、家族様の意向を書面にて記載いただき、看取りケアにおけるマニュアルを作成し、職員・家族様にも説明できるように取り組んでいます。	看取り指針について重要事項説明書に明文化し、利用開始時に説明し同意書を得ている。現在重度化した利用者が3名おられ、医師が頻繁に往診しており、食事介助等に家族の協力を得て、管理者や職員は自然体でケアに臨んでいる。関係者が連携して終末ケアに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	9月の事業所研修にて西和消防署より署員に来て頂き、職員全員で救急救命の講習を受けました。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、各職員に周知徹底を行っています。	年2回利用者参加で昼間避難訓練と夜間想定避難訓練を各1回行っている。訓練結果を消防署に報告し指導を受けている。スプリンクラー設置、台所はオール電化にしている。自治会の消防訓練にも参加し、備蓄のインスタントラーメンや水、米等を非常災害時に地域へ提供できるよう準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を尊重し親しみのある声かけを実践しています。	スタッフ同士で無駄な話をしない事や大声で利用者に話しかけないようにしている。利用者の居室へ立ち入る時は必ずノックをしてから入るなど、許可を得てから入室している。希望者には同性による排泄介助を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、ご利用者様がどうしたいのか耳を傾け、本人様の意に添うように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様の生活リズムを大切に希望に沿ったサービスが出来るよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らの意思によりお化粧をしたりされる事に対して支援し身だしなみに気を付けるよう努めています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にテーブルを拭いていただいたり、食器を洗っていただいたり、また各利用者様が好みの漬物やご飯のお供等を購入され、毎食時提供させていただいています。	毎食ご飯とみそ汁は職員が作り、ご飯の硬さは普通と柔らかめを用意している。主菜は給食業者からの調理済みの料理を提供している。当日になって利用者が寿司を希望することもあり隣のスーパーで職員が寿司を買いに行くこともある。カレーやうどんをメニュー追加した。家族が持参した漬物や好物を事業所の冷蔵庫に預かり食事時に添えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態の悪+D89:E98いご利用者様にはミキサー食・刻み食にしたり飲み物にはトロミをつける等、または塩分制限のある利用者様には溝汁の味を薄める等し個々の状態に応じて提供させていただいています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんの事、協力歯科にお願いし毎週歯科往診に来て頂き口腔内の状況、義場の状態などを診てもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記載し時間を把握しトイレ誘導を行う トイレのサインを見逃さず誘導している。	排泄表に夜間は赤色で、昼間は黒色で記録し、一目で排泄パターンを把握できる工夫をしトイレ誘導を行っている。体力低下でオムツ対応の利用者以外は、昼間はハビリパンツを使用して、トイレでの排泄の自立を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し便薬等の服薬を支援し水分補給を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主治医や協力医療機関等の意見を取り入れ、個々の意向に沿った日時に入浴して頂いています。	朝から夕方間で利用者は希望の時間に入浴することができる。湯の入れ替えや湯船の掃除は利用者ごとに丁寧に行う。入浴が嫌いな利用者には声掛け誘導をしたり、清拭で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向に沿い、昼夜を問わず、休息していただけるようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各職員がいつでも閲覧できるようにし、変更時には看護ノートを活用し周知できるようにしています。毎日定時にバイタル測定を行います。必要であれば主治医の指示にて回数を増やし対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でスタッフとの買い物や洗濯物干し、洗濯物畳等を行っていただく。またレクリエーションにてカレンダーの色塗りや折り紙、カラオケ等楽しんでもらっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にお買い物やドライブ、馴染みのある場所にてかけたり散歩などを行っています。	日常的に外気浴を兼ねて事業所裏の見晴らしのよい平群北公園への散歩や家庭菜園へに出かけている。月一度は馬見公園へ遠出し、買い物や外食に出かけている。また季節を楽しむドライブや千手院の大根炊きにも出かける。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や御本人より強い要望があれば金銭所持を考えますが、現時点では金銭を所持されている方はおられません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が電話をしたい時に自由にグループホームの電話を使用していただいています。また携帯電話を所有されておられるかともおられます。知人や家族様からの郵便物は本人様に手渡し、手紙などを書かれる場合は支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花々を飾り、採光も良くトイレや浴室も広く、都度温度・湿度には気を配り居心地良く過ごし手頂けるよう配慮しています。	明るいリビングはゆったりと広く、テーブルには花が飾られて、食後は折り紙を自由に楽しむ利用者もいる。手作りの作品は手に取って楽しめるように飾られている。東側の窓のブラインドで明るさを調節したり、加湿器で湿度の調節をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が心地よく過ごせるよう食事の際、席の配置を考慮したり、ソファーに移動しゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の使い慣れた家具を居室に持ち込んでいただいたりご家族様の写真などを飾り、快く過ごしていただけるよう配慮しています。	各居室からは生駒山に連なる山並みが見渡せて季節の移り変わりが楽しめる。居室には馴染みのタンスを置いたり家族の写真が飾られており、ベッドや掛け時計、温湿度計が備え付けられて、自室でクロスワードや編み物をする利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置し、車椅子での自走や歩行器でも安全なように配慮されており、個々の能力に応じた声掛けや支援を実施しております。		